

令和6年度 第1回静岡市食育推進会議

日時：令和6年7月31日（水）14時00分～15時30分

会場：静岡市役所 新館9階 特別会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

（1）第3次静岡市食育推進計画 令和5年度事業評価について

（2）第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票について

（3）第4次静岡市食育推進計画 令和6年度事業計画について

（4）第4次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票の作成について

4 その他

5 閉 会

静岡市食育推進会議委員一覧

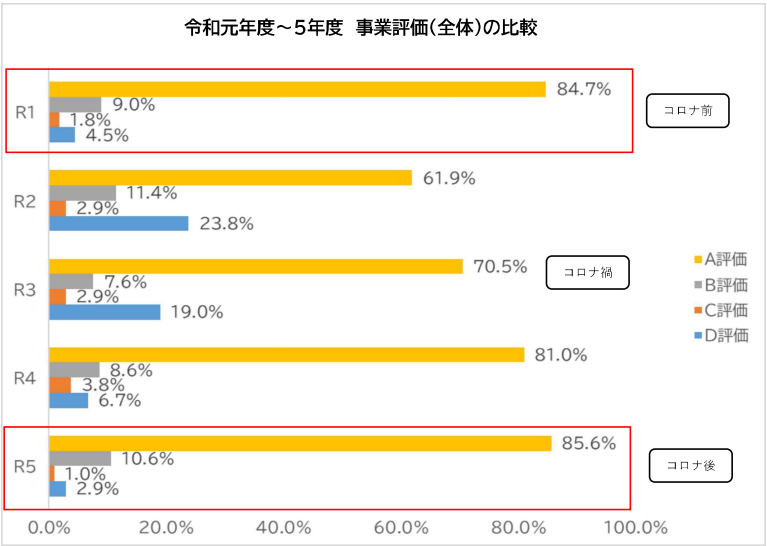
任期 R5. 6. 1～R7. 5. 31

R6. 6月現在

	所属・団体	役職	氏名
1	しずおか市消費者協会	理事	あおき よしこ 青木 良子
2	市民委員	—	うめき みきこ 梅木 幹子
3	静岡市校長会	賤機北小学校長	おだ やすこ 小田 泰子
4	関東農政局 消費・安全部	消費生活課長	かしわや ひろき 柏谷 広樹
5	一般社団法人 静岡市清水医師会	理事	かどた けいすけ 門田 景介
6	一般社団法人 静岡市静岡歯科医師会	副会長	きのした ひろお 木下 博雄
7	公益社団法人 静岡県栄養士会	副会長	くぼた みほこ 久保田 美保子
8	静岡県立大学 食品栄養科学部	教授	くわの としこ 桑野 稔子
9	市民委員	—	しんや ことみ 新谷 琴美
10	市民委員	—	すぎうら もとあき 杉浦 元昭
11	静岡商工会議所	常務理事	まつうら たかゆき 松浦 高之
12	静岡市公立こども園園長会	中田こども園長	みずたに ともみ 水谷 智美
13	静岡市農業協同組合	代表理事組合長	みつやま さだむ 三津山 定
14	由比港漁業協同組合	代表理事組合長	みやはら じゅんいち 宮原 淳一
15	静岡市食生活改善推進協議会	会長	わたなべ りょうこ 渡邊 良子

(敬称略) 五十音順

基本理念		食を通じて未来を育み、しずおかの「わ」を広げよう　～健康長寿のまちづくりを食から～																	
基本方針		若い世代を中心とした食育の推進					健康長寿世界一につながる食育の推進					「わ」(和・輪・環)の食育の推進							
目標No.		目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	目標11	目標12	目標13	目標14	目標15	目標16	全体	(割合)
目 標 (評価指標)		食育に関心を持つ若い世代の割合の増加	朝食を欠食する若い世代の割合の低下	情報を得るために行動する若い世代の割合の増加	女性(20歳代)のやせ(低体重)の割合の低下	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合の増加	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合の増加	生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民の割合の増加	食品の安全性について基礎的知識を持つ市民の割合の増加	ゆっくり噛んで味わって食べるなど食べ方に関する市民の割合の増加	定期的に歯科健診を受診している市民の割合の増加	毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合の増加	食品ロス削減のために行動している市民の割合の増加	地元(静岡市)で生産された物を日頃から購入するようにしている市民の割合の増加	農林漁業体験をしたことがある市民の割合の増加	地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などを継承している市民の割合の増加	茶葉から入れた緑茶を飲む市民の割合の増加		
令和5年度対象事業数		7	2	12	2 (再掲2)	7 (再掲1)	4	10	10 (再掲1)	2 (再掲1)	9	3	2	10	12	8 (再掲1)	4	104	※再掲込み
1. 令和5年度 事業評価	A評価	7	2	11	2	7	2	7	10	2	9	2	1	9	12	4	2	89	85.6%
	B評価	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	1	1	1	0	2	2	11	10.6%
	C評価	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1.0%
	D評価	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	2.9%
(参考) 令和4年度 事業評価 (105事業)	A評価	6	3	11	2	5	4	7	8	2	9	2	2	6	9	6	3	85	81.0%
	B評価	1	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	2	2	0	0	9	8.6%
	C評価	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	4	3.8%
	D評価	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	2	0	1	0	7	6.7%
2. 第4次 食育計画 への登載	継続	7	2	10	2	5	2	9	9	1	3	3	2	9	12	7	3	86	82.7%
	事業名・内容等 変更	0	0	2	0	1	2	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	9	8.6%
	削除	0	0	0	0	1	0	1	0	0	5	0	0	0	0	1	1	9	8.7%



令和5年度対象事業は104事業(再掲含む)である。
事業評価は、「A評価」が89事業(85.6%)、「B評価」が11事業(10.6%)、「C評価」が1事業(1.0%)、「D評価」が3事業(2.9%)であった。

新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度から事業評価(全体)を比較してみると、令和5年度では「A評価」が85.6%と、令和元年度の「A評価」の84.7%を上回り、それぞれの事業がほぼ計画通りに実施できていることが分かる。

「事業評価」
当該年度実施計画を基準値として、A～Dの4段階で評価
A評価：80%以上達成
B評価：50%以上80%未満達成
C評価：50%未満達成
D評価：実施なし

令和5年度事業評価 B～D 評価の事業について

事業 No.	担当	事業名	評価	評価の理由と課題(抜粋)	第4次計画 への登載
13	食品衛生課	食の安全・安心 ホームページ「たべしずねっと」	B	メールマガジンは予定通り発行できた。ホームページのアクセス数は目標に届かなかったため、内容の充実を図ってアクセス数の増加に繋げたい。	継続
31	静岡市食生活改善推進協議会	食育教室(学校・幼稚園等)	B	依頼事業のため子どもが少ない地区では参加者が集まらず、実施ができなかった。実施ができなかった分は、他事業を開催するなどして対応した。	削除
37	児童生徒支援課	健康教室	B	教室開催は目標通り実施できた。生活習慣を見直し、実践の継続を支援できる手立てを検討していきたい。	削除
40	静岡県調理師協会	調理師資質向上対策事業	B	調理従事者に対し講習を通じて衛生管理の知識の向上を図ることができた。参加者を増やしていくことが課題である。	継続
61	葵・駿河・清水区健康支援課	おやこ食育教室	B	理解度、満足度は 100%であった。会場により、応募者がなく中止となった回がある一方、定員を上回る回もあった。次年度は、多くの方が参加できるよう開催会場を一部見直す。	継続
65	静岡市食生活改善推進協議会	スマートクッキング	B	料理教室を含む教室は3回実施で目標には届かなかったが、各事業の中で環境に配慮した食生活について講話を 40 回行った。	継続
68	清水漁業協同組合水産漁港課	用宗漁港まつり	B	天候不良により一日延期となってしまったが、生しらす、しらす加工品の販売、模擬せりや体験乗船を通して、地域の漁業、水産物、魚の食べ方などへの関心や理解を深めることができた。	継続
92	静岡県調理師協会	食文化・食育普及啓発	B	開発したレシピで料理教室を開催。さらに野菜摂取の大切さを伝える健康教育講習も同時に行い、参加者の好評を得ることができた。	継続
93	静岡市食生活改善推進協議会	子育てトーク・おやつ教室	B	依頼があれば対応をしたため、計画通りには実施できなかったが、参加者には好評であった。	削除
95	農業政策課	お茶の美味しい入れ方教室	B	学校側のカリキュラムの都合や、5、6年生合同での隔年実施希望、類似の授業実施済みなど、全校実施には至らなかった。希望する学校に対しては全校実施した。今後は茶生産者など民間とも連携しながら、市内小学校での実施率を上げていく。	継続
96	静岡市食生活改善推進協議会	茶育・食茶の推進	B	茶育・食茶の教室としては募集をしておらず、依頼があれば対応をしたため、計画通りには実施はできなかったが、食育の日などにチラシを配布するなどして周知をした。	削除

90	中山間地 振興課	都市山村交流 センターの活 用	C	評価指標の5割未満達成であったため、 評価はCとした。 コロナ後の行動変容により、講座の開催 数自体が減少していることから、目標値 の見直しが必要である。	継続
29	静岡市食 生活改善 推進協議 会	男性料理教室	D	男性料理教室はコロナ禍に一度開催を休 止。 依頼があれば対応をしてきたが、今後は 他の事業に含めていくこととする。	削除
38	静岡県給 食協会	しずおかアク ティ部	D	令和5年度は参加を見送った。 次年度については検討中。	継続
91	静岡県給 食協会	調理技術研修 会	D	令和5年度は実施をしなかった。 次年度については検討中。	継続

※詳細は「資料 2-2 第3次静岡市食育推進計画 令和5年度実績」をご覧ください。

第3次静岡市食育推進計画 各目標別登載事業一覧

資料2-1

◎：目標数値を達成する上で最も影響のある事業

目標・目標数値・事業数	重点事業	No.	事業名	担当課・団体
目標1：食育に関心を持つ若い世代の割合 H28:78.7%⇒R5:85%以上 全7事業		1	0歳児の育児相談、6か月児育児相談における栄養相談	葵・駿河・清水区健康支援課
		2	離乳食の作り方教室	葵・駿河・清水区健康支援課
		3	食育活動	子ども未来課
		4	あそび、子育ておしゃべりサロン	子ども未来課
	◎	5	公立こども園における食育推進事業	こども園課
		6	食育講習会	学校給食課
		7	しずまえ新聞の発行	水産漁港課
目標2：朝食を欠食する若い世代の割合 20歳代：H28:43.4%⇒R5:35%以下 30歳代：H28:29.7%⇒R5:25%以下 全2事業	◎	8	しずおかカラダにeat75	葵・駿河・清水区健康支援課
	◎	9	食に関する指導	学校給食課
目標3：情報を得るために行動する若い世代の割合 R5:80%以上 全12事業		10	静岡市版食事バランスガイド	健康づくり推進課
		11	食育の日、食育月間の普及啓発	健康づくり推進課
		12	食育ホームページ	健康づくり推進課
		13	食の安全・安心ホームページ「たべしずねっと」	食品衛生課
		14	保育フェアでの食育展示	こども園課
		15	農水産物の情報発信	農業政策課 水産漁港課
		16	啓発資料の作成	学校給食課
	◎	17	食に関する情報発信	学校給食課
		18	食の安全・食育に関する資料の展示	中央図書館
		19	食育の日、食育月間の普及啓発	静岡市食生活改善推進協議会
		20	健康まつり	静岡市食生活改善推進協議会
		21	第4次食育推進基本計画の重点課題の解決と目標達成のための取組	関東農政局
目標4：女性（20歳代）のやせ（低体重）の割合 H28:30.4%⇒R5:20%以下 全2事業	◎	(8)再掲	しずおかカラダにeat75	健康づくり推進課
	◎	(9)再掲	食に関する指導	学校給食課
目標5：主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合 H28:43.2%⇒R5:55%以上 全7事業		22	フレッシュマタニティ教室	葵・駿河・清水区健康支援課
		23	1歳6か月児健康診査における栄養相談	葵・駿河・清水区健康支援課
		24	3歳児健康診査における栄養相談	葵・駿河・清水区健康支援課
		(8)再掲	しずおかカラダにeat75	健康づくり推進課
		25	おやこの食育教室	静岡市食生活改善推進協議会
		26	給食参観	静岡市私立幼稚園連合会
	◎	27	栄養素について学ぶ	静岡市私立幼稚園連合会
目標6：主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合 H28:57.7%⇒R5:70%以上 全4事業	◎	28	元気で長生き栄養講座	葵・駿河・清水区健康支援課
		29	男性料理教室	静岡市食生活改善推進協議会
		30	高齢者向け教室	静岡市食生活改善推進協議会
		31	食育教室（学校・幼稚園等）	静岡市食生活改善推進協議会

目標7:生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民の割合 H28:60.6%⇒R5:65%以上 全10事業		32	健康まつりにおける栄養相談	葵・駿河・清水区健康支援課
		33	ヘルスアップ食事相談	葵・駿河・清水区健康支援課
	◎	34	食生活サポート講座	葵・駿河・清水区健康支援課
		35	健康相談(随時)	葵・駿河・清水区健康支援課
		36	栄養成分表示促進事業	食品衛生課
		37	健康教室	児童生徒支援課
		38	しずおかアクティ部	静岡県給食協会
		39	栄養士研修会	静岡県給食協会
		40	調理師資質向上対策事業	静岡県調理師会
	◎	41	生活習慣病予防教室	静岡市食生活改善推進協議会
目標8:食品の安全性について基礎的知識を持つ市民の割合 H28:65.8%⇒R5:70%以上 全10事業	◎	42	食の安全教室	食品衛生課
		43	食の安全・安心に関するリスクコミュニケーション	食品衛生課
		44	給食施設研修事業	食品衛生課
		(39)再掲	栄養士研修会	静岡県給食協会
		45	衛生講習会	静岡県給食協会
		46	見学研修会	静岡県給食協会
		47	グリーコンシューマー講座 ⇒(仮)エシカル消費と家庭の食卓	しずおか市消費者協会
		48	「食品衛生月間」街頭広報活動	静岡市食品衛生協会
		49	「静岡食協ニュース」の編集・発行	静岡市食品衛生協会
		50	地域のお祭り等の「バザー等開催届」提出団体への消毒薬の提供	静岡市食品衛生協会
目標9:ゆっくり噛んで味わって食べるなど食べ方に関心のある市民の割合 H28:38.6%⇒R5:45%以上 全2事業		51	歯つらつ健口講座	健康づくり推進課
	◎	(9)再掲	食に関する指導	学校給食課
目標10:定期的に歯科健診を受診している市民の割合 H28:52.8%⇒R5:60%以上 全9事業		52	夏休み親子「歯」の教室～ミュータンス探検隊～	健康づくり推進課
		53	歯みがき巡回指導	健康づくり推進課
		54	歯みがきスタート教室	健康づくり推進課
		55	1歳6か月・3歳児健康診査における歯科相談	健康づくり推進課
		56	乳幼児むし歯予防事業(委託)	健康づくり推進課
		57	フッ化物洗口法によるむし歯予防事業	健康づくり推進課
	◎	58	歯周病検診	健康づくり推進課
		59	妊婦歯科健診	子ども家庭課
目標11:毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事を する市民の割合 H28:81.0%⇒R5:85%以上 全3事業		61	おやこ食育教室	葵・駿河・清水区健康支援課
		62	サマーキャンプ	子ども会連合会
	◎	63	楽しく子育て応援教室	静岡市食生活改善推進協議会
目標12:食品ロス削減のために行動している市民の割合 H28:50.3%⇒R5:55%以上 全2事業	◎	64	食品ロス削減対策事業	ごみ減量推進課
		65	スマートクッキング	静岡市食生活改善推進協議会

目標13:地元(静岡市)で生産された物を日頃から購入するようにしている市民の割合 H28:23.6%⇒R5:30%以上 全10事業		66	静岡市認定農業者協会「春の市・秋の市・冬の市」	静岡市認定農業者協会 農業政策課
		67	産業フェアしずおか	農業政策課 水産漁港課 中山間地振興課
		68	用宗漁港まつり	清水漁業協同組合 水産漁港課
	◎	69	地場産物を取り入れた献立の提供	学校給食課
		70	地産地消活動(商店街・店頭販売)	静岡市農業協同組合
		71	しずおか畜産まつり	静岡市農業協同組合
		72	地元の海産物	清水漁業協同組合
	◎	73	しらすを食べる会	清水漁業協同組合
	◎	74	地産地消活動(商店街・店頭販売)	清水農業協同組合
		75	アグリフェスタしみず	清水農業協同組合
目標14:農林漁業体験をしたことがある市民の割合 H28:34.3%⇒R5:40%以上 全12事業		76	清水港マグロまつり	海洋文化都市政策課
		77	アグリチャレンジパーク蒲原活用事業	農業政策課
		78	しずまえ漁業見学ツアー	水産漁港課
		79	親子しいたけ種駒打ち教室	中山間地振興課
		80	親子食農体験「ソレイユくらぶ」	静岡市農業協同組合
		81	出張加工品づくり教室	静岡市農業協同組合
		82	農業体験教育事業	静岡市農業協同組合
	◎	83	生消菜言倶楽部	静岡市農業協同組合
		84	体験学習	私立幼稚園連合会
		85	タタミ干し作り体験と体験乗船	清水漁業協同組合
目標15:地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などを継承している市民の割合 H28:28.4%⇒R5:35%以上 全8事業		86	出前講座	清水農業協同組合
		87	農業体験教育事業	清水農業協同組合
		88	ライフステージに応じた各種食育推進講座	生涯学習推進課
	◎	89	食育応援団	健康づくり推進課
		90	都市山村交流センターの活用	中山間地振興課
	◎	(69)再掲	地場産物を取り入れた献立の提供	学校給食課
		91	調理技術研修会	静岡県給食協会
		92	食文化・食育普及啓発	静岡県調理師協会
目標16:茶葉から入れた緑茶を飲む市民の割合 H28:53.3%⇒R5:60%以上 全4事業		93	子育てトーク・おやつ教室	静岡市食生活改善推進協議会
		94	じまんの「しよく」フェスタ	静岡市農業協同組合
	◎	95	お茶の美味しい入れ方教室	農業政策課
		96	茶育・食茶の推進	静岡市食生活改善推進協議会
		97	お茶育	静岡市農業協同組合
		98	緑茶を飲もう	静岡市私立幼稚園連合会

		目標1		食育に関心をもつ若い世代の割合を85%以上にする										全7事業											
		A		B		C				E		F		G		H		I		J		L			
		事業の概要				対象者 (該当に○、保護者を指定する場合に◎)				第3次計画策定時の状況						令和5年度事業実績と評価						第4次食育性進計画への意義			

		目標2		朝食を欠食する若い世代の割合を20歳代で35%以下、30歳代で25%以下にする										全2事業														
		A B		C							D		E		F		G		H I		J		L					
		事業の概要		対象者 (該当に○、保護者を対象する場合は◎)							第3次計画策定時の状況										令和5年度事業実績と評価						第4次食育推進計画への登録	
計画の 数値目標 番号	事業	事業内容		0 5 歳	6 11 歳	1 2 3 歳	2 0 4 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題		事業の 方向性	削除の理由						
8	健康づくり推進課	1 2 3 4 6 【重点事業】 しずおかカラダにeat75	民間企業・大学等と連携し、意見交換会や食育イベントを通して、まちぐるみで「食」を通じた健康づくり事業を実施する	◎	◎		●						民間企業や大学等との連携を図り事業をスタートした。若い世代は朝食欠食や健康に関心が低いなどの課題が多く、実践面での行動変容に至っていない。	充実		・若い世代による食育ワークショップの開催 ・コンビニ、大学との連携によるメニューの提供 ・食で始める健康貯金スタートブックの周知 ・スタートブックを活用した情報提供を図る。	民間事業者と連携した食育教室を2回開催 食育啓発用まんがを知って得する食事のアカしを4,000冊、「一人暮らしのどうする?ごはん」を12,000冊増刷し、高校2年生へ「一人暮らしのどうする?ごはん」を約7,000冊配布、その他、保健福祉センター、生涯学習センター、図書館等にも配布した。	A	中北薬品(株)の栄養士を講師に招き、清水桜が丘高校生活研究部の生徒を対象に調理実習を含む食育教室を開催。「外食・ファストフード・市販の食材」についての講義を通して、さらに追加して食べた1回野菜量とを検証し、調理・試食することで楽しく学ぶ機会となった。 食育啓発用まんがが「一人暮らしのどうする?ごはん」を高校2年生を中心に配布し、朝ごはんの重要性について周知した。		継続							
9	学校給食課	1 2 4 9 【重点事業】 食に関する指導	・児童生徒に食に関する正しい知識と望ましい食習慣が身につくように、各小中学校で食に関する指導を実施 ・献立表や給食だよりによる情報提供				●	●					H29食育推進状況調査にて65%の学校が「食育の成果が児童生徒に表れている」と回答した。	充実	・各学年1回以上実施する ・栄養教諭・栄養士によるTT授業の充実を図る。	食育推進状況調査にて「食育の成果が児童生徒に表れている」と回答する学校95%を目指す。	各学年1回以上の「食に関する指導」を実施。各学校の状況に合わせて柔軟に対応する。	各学年1回以上実施した学校89.6%	A	小中学校126校中112校で各学年1回以上の「食に関する指導」を実施できた。小学校92.7%、中学校83.6%の結果から中学校における実施率向上が課題である。今後は、一人一台端末等も活用し100%を目指す。		継続						

		目標3		情報を得るための行動をする若い世代の割合を80%以上にする										全12事業												
		A B		C							D		E		F		G		H		I		J		L	
		事業の概要		対象者 (該当に○、保護者を対象する場合は◎)							第3次計画策定時の状況					令和5年度事業実績と評価					第4次食育推進計画への登録					
計画の 数値目標 番号	事業	事業内容	0 5 歳	6 11 歳	1 2 3 歳	2 0 4 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由						
健康づくり推進課	3	静岡市版食事バランスガイド ・静岡市版食事バランスガイドを活用し、栄養バランスのとれた食生活の普及啓発を行う	◎	◎	◎	●	●	●	●	●	●	継続	若い世代から栄養バランスのとれた食生活を求めるよう、様々な機会において周知を図っていく。	市内9保健福祉センターに設置するほか、食育に関係する各種教室やイベントで配布し、また若い世代へ普及啓発を行う。	・食育月間等で静岡市版食事バランスガイドを配布 ・イベントや食育に関する各種教室でバランスガイドを配布	食育月間や健康増進月間にて食事バランスガイドを配布。 関係機関での健康教育等で配布し、栄養バランスについて周知した。	A	食事バランスガイドは、教室や個別指導の際に栄養士等の説明とともに配布する際は有効だが、配布等で手に取っていただく場合、内容への理解が難しいことも考えられる。 内容等を検討し、新しい静岡版の食事バランスガイドを作成する。	継続							
健康づくり推進課	3	食育の日、食育月間の普及啓発 ・市役所にてポスター、ちらし等の展示・掲示 ・民間団体等と連携した食育活動	◎	◎	◎	●	●	●	●	●	●	継続	食育を広く周知する手段として今後も継続していく。	・食育の日、食育月間、生活改善普及運動(6・9月)イベントの開催 ・市民連携による食育推進活動の実施	・食育の日、食育月間等イベントの開催 ・市民連携による食育推進活動の実施	食育月間では時間・清水市会にて静岡県政選と共催で食に関するパネル展示を行った。 各事業のデジタルサイネージ放送で食育啓発用まんがの周知を行った。	A	食育の日では静岡伊勢丹ウェルネスパークで静岡市食生活改善推進協議会の推進員と連携し、個別栄養相談を行った。 食育の日、食育月間については広く周知できるように引き続き、展示やSNS等を利用して発信していく。	継続							
健康づくり推進課	3	食育ホームページ ・食に関する情報やイベント情報の提供、食育応援団の活動等を紹介	◎	◎	◎	●	●	●	●	●	●	充実 見直し、改善	情報提供の内容を見直し、より実証に繋げる取組を行う。	・食育事業の周知や実施状況の掲載 ・食育応援団事業の周知、実施状況の掲載 ・食育に関する情報の充実	・食育事業の周知や実施状況の掲載 ・食育応援団事業の周知、実施状況の掲載など	食育応援団の活動や当課事業「しずおかカラダにeat75」等についてSNS等で発信した。	A	市のRで「しずおか食育連係」として食に関する情報を発信した。 第4次食育推進計画が6年度から開始するため、計画の内容の紹介等についても今後発信をしていく予定。	継続							
食品衛生課	3 R	食の安全・安心ホームページ「たべしずねっと」 ・食育や食の安全に関する情報、レシピ集、ニュース等を掲載する専用サイト	●	●	●	●	●	●	●	●	●	継続	内容の更なる充実を検討する。	随時更新	アクセス数：40000回 メールマガジン：12回発行	アクセス数：32855回 メールマガジン：12回発行	B	メールマガジンは予定通り発行できた。ホームページのアクセス数は目標に届かなかったため、内容の充実を図ってアクセス数の増加に努めた。	継続							

		目標3		情報を得るための行動をする若い世代の割合を80%以上にする																				
		A B		C							D		E		F		G		H I		J		L	
		事 業 の 概 要		対象者 (該当に○、保護者を対象する場合は◎)							第3次計画策定時の状況					令和5年度事業実績と評価						第4次食育推進計画への登録		
課名	計画の 数値目標 番号	事 業	事 業 内 容	0 1 5歳	6 1 1 9歳	1 2 1 1 9歳	2 0 1 2 9歳	3 0 1 3 9歳	4 0 1 4 9歳	5 0 1 5 9歳	7 0 歳以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由				
14 こども園食育推進計画	1 3 9 14 16	保育フェアでの 食育展示	・こども園、保育園 食育実施例の紹介 (写真の展示・資料 配布) ・こども園、保育園 食育パランスガイ ド等食育に関する リーフレット配布 ・者の持ち方資料配 布 ・人形劇の実施	●	●	●	●	●	●	●	●	食を通じた世代間交流や 生産者と消費者との交流 を行うことで食の楽しさ を体験することができて いる。	継続	継続して実施していく ことで、市民への普及 と発展を図る。	静岡市保育協会主催 年1回	実施未定	・保育フェアで給食や おやつの写真を表示。 また、食育クイズやエ プロンシアターを実 施。こども園の給食レ ンビを配布。	A	保育フェアで食育についてのプ ースを設けて情報発信ができた。	継続				
15 農水産物食育推進計画	3 13 16	農水産物の情報 発信	ホームページ・フェ イスブックによる農 水産物の情報発信 (ZRAITO！しず おか)	●	●	●	●	●	●	●	●	年間104回(1週間に2 回)を目標に取材等を行 い情報発信を行っている。	充実	リンク先の農業者から の記事の投稿を可能に し段階的に増やしてい くことで、農業者が情 報発信できる環境をつ くる。	HP「ZRAITO！しずお か」を介したリンク先 「食育者HP」へのデー タ連携 ①HP「ZRAITO！しずお か」へのアクセス数 71,000件 ②静岡市SNSへの投稿 年52回(毎週水曜日投 稿)	①63,600件(ZRAITO！ しずおか) ②静岡市SNSへの投稿 年52回(毎週水曜日投 稿)	A	①71,000件の目標に対し、実際は 63,600件に留まった。 昨年は記事の掲載が比較的少な く、新規でHPを訪れる人が少な かったためと考えられる。 ②計画通り実施できた。	継続					
16 学校給食推進計画	3	啓発資料の作成	・小学1年生の保護 者に「学校給食が始 まります」を配付 ・小中学生に食育用 クリアファイルの配 付	●◎	◎◎							H29食育推進状況調査より、 食育啓発資料が食育 推進のために役立ってい ると思う学校が50%で あった。	継続	第2期静岡市教育委員 会食育推進計画に基づ き、啓発資料を作成 し、配付する。	食育推進状況調査にて 「食育啓発資料が食育 推進のために役立ってい ると思う」と回答す る学校80%以上を目 指す。	新1年生の保護者向け資料 を作成。	・新1年生の保護者に向 けて資料「学校給食が はまります」を作成 し、各小学校に配付。 ・何資料のウェブ版を 作成し学校給食ウェブ サイト内に掲載。	A	学校給食の仕組みやできるまでを 表現するため、文章表現をわかり やすくしたり、写真で指導書を出 したりした。今後は、活用状況を 踏まえ内容の修正や周知方法等 の見直しを図る。	継続				
17 学校給食推進計画	3	【重点事業】 食に関する情 報発信	毎月配付している献 立表を活用して、市 内公立小中学校の児 童生や保護者に食育 を広く周知	●◎	◎◎							・H29保護者アンケート により、97%が献立表を 見ており、79%が市教委 発行の家庭向けおたより をみていることが確認で きた。 ・H29食育推進状況調査 より、食育推進のために 献立表やおたより、ホー ムページの情報発信が役 立っていると回答した学 校は78%であった。	継続	献立表にて、ふると 給食や行事食、旬の野 菜、栄養バランス、食 事のマナーなどを紹介 する。	食育推進のために情報 発信が役立っていると 回答する学校80%以上 を目指す。	献立表、学校給食施設や 食育についての情報を学 校給食ウェブサイトに掲 載。	・学校給食ウェブサイト で献立表・食育情 報、レシピ等を情報発 信。 (学校給食ウェブサイ トへのアクセス数(年 間約15万件))	A	・献立表に加え、学校給食に関わ る情報(歴史、学校給食施設の様 子、食育指導資料等)を発信し た。 ・地産地消の取組みを計画にし た。 ・学校給食施設の様子や献立の工 夫とその特徴等を、各施設の栄養 士が定期的に情報発信した。 ・食育に活用できるような新た なコンテンツ開発を検討していく。	継続				
18 市民協働推進計画	1 3	食の安全・食育 に関する資料の 展示	市立図書館12館にお いて、関連資料(本・ パンフレット)を展示	●	●	●	●	●	●	●	●	普及手に取られない資料 も、展示として出すこと で手に取ってもらえる。 今後も継続していく。	継続	引き続き全12館で展示 を実施していく。 ※大規模改修等で休館 する館を除く	市立図書館12館で展示 を実施 ※大規模改修等で休館 する館を除く	史料図書館を除いた11館 で関連資料(本・パンフ レット)を展示する。	史料図書館を除いた11 館で関連資料の展示を 実施した。	A	計画どおり実施できた。食の安 全・食育の関連資料が、閲覧や貸 出をされることにより、市民協 働の向上につながった。	継続				
19 静岡市中央市外市町村 連携推進計画	3	食育の日、食育 月間の普及啓発 実施	街頭キャンペーンの 実施	●	●	●	●	●	●	●	●	市に協力、達成	継続	市に協力、街頭キャン ペーンの実施	静岡市に街頭キャン ペーンの実施協力達成	9回(各地区1回ずつ)	8回	A	会場の確保ができず開催ができな かった地区もあったが、児童館や スーパー等と連携して開催するこ とができた。	事業名変更	事業名を 「食育の日キャンペーン」 に変更			
20 健康増進推進計画	3 13	健康まつり	各保健福祉センター で食の啓発を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●	現状、概ね成果をあげら れている。	継続	各保健福祉センターで 実施する食の啓発事業 に協力	各保健福祉センターで の食の啓発事業に協力	2回程度(保健福祉セン ターからの依頼による)	2回	A	保健福祉センターからの依頼によ り開催し、栄養バランス等につ いて周知する機会となった。	事業名変更	事業名を 「健康まつりへの参加」 に変更			

		目標3		情報を得るための行動をする若い世代の割合を80%以上にする																				
		A B		C		D		E		F	G	H	I	J	L									
		事 業 の 概 要		対象者 (該当に●、観覧者を指定する場合に○)		第3次計画策定時の状況					令和5年度事業実績と評価				第4次食育推進計画への登載									
編 号	計画の 数値目標 番号	事 業	事 業 内 容	0 3 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 7 1 1 歳	2 0 1 2 9 歳	3 0 0 3 9 歳	4 0 0 4 9 歳	5 0 1 5 9 歳	6 0 1 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5（2023）年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画（評価指標）	実績（成果）	評 価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由			
21	1～5	関東農政局 第4次食育推進基本計画の重点課題の解決と目標達成のための取組	・第4次食育推進基本計画の推進に係る情報提供 ・食育月間の取組み（食育推進ポスター掲示、前面での周知及びセミナー開催） ・「関東食育推進ネットワーク」の活性化（関東農政局ホームページ「食育ひろば」にて情報発信、会員へメールマガジン配信、食育活動の実施に関する交流会開催）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	第4次食育推進基本計画に基づき、3つの重点課題の解決に向けて食育を推進 (1) 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進 (2) 持続可能な食を支える食育の推進 (3) 「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進	第3次食育推進基本計画（平成29～令和2年度）の重点課題の解決と目標達成のための取組	第4次食育推進基本計画（令和3年度～7年度）の重点課題の解決と目標達成のための取組	・食育推進協議会等で第4次食育推進基本計画及び環境に優しく持続可能な生産～消費を実現する「みどりの食料システム戦略」の周知・情報提供 ・6月の食育月間に関東農政局で作成の食育ポスターを合同庁舎2号館、ホテルプリランテ武蔵野及び都原・政令指定都市、教育機関等に展示するとともに、新たに農業体験施設などに展示 関東農政局「消費者の都庁」6月特別展示にて食育に関する動画放映、さいたま新都心駅前大型モニターで食育月間及び食育啓発動画の放映により周知 ・6月の食育月間に令和5年6月オンライン及び現地で食育セミナー開催 ・関東食育推進ネットワーク会員間の連携のプラットフォームとして、関東農政局のホームページ内「食育ひろば」やメールマガジンを活用 ・関東農政局ホームページ「食育ひろば」で随時、農林漁業体験情報、会員情報、イベント情報等の発信 ・関東食育推進ネットワーク会員に対しメールマガジンの配信（毎月19日） ・食育活動の実践に関する交流会開催（令和6年2月） ・管内都県・政令指定都市と連携した食育の推進	継続	第4次食育推進基本計画において設定する目標の目標値	第4次食育推進基本計画において設定する目標の目標値	①食育推進協議会等で環境に優しく持続可能な生産～消費を実現する「みどりの食料システム戦略」の情報提供 ②関東農政局「消費者の都庁」6月特別展示、関東農政局所内食育パネル展、関東農政局作成ポスターを各県・政令指定都市などに配布 ③食育月間に関東農政局作成の食育ポスターを合同庁舎2号館、ホテルプリランテ武蔵野に展示。 関東農政局「消費者の都庁」6月特別展示にて食育に関する動画放映、さいたま新都心駅前大型モニターで食育月間及び食育啓発動画の放映により周知 ④関東食育推進ネットワーク会員間の連携のプラットフォームとして、関東農政局のホームページ内「食育ひろば」やメールマガジンを活用。 ⑤関東食育推進ネットワーク会員に対しメールマガジンによる情報提供（毎月19日） ⑥関東農政局ホームページ「食育ひろば」で食育に関するコンテンツを情報発信 総務ファームなどの農林漁業体験を動画で紹介する「関東食育DOGA」15秒で食育を紹介する「食育15秒動画」を更新、農林漁業体験情報、会員情報、イベント等の情報提供 ⑦SNS等を活用してスポーツ選手の食育の発信「食育の本棚」 ⑧管内都県・政令指定都市の担当者会議開催 ⑨6月の食育月間に、食育セミナー「スポーツの力と食育で地域を元気に！」を開催 令和5年6月30日（金）会場及びオンライン開催 ⑩令和5年度 食育月間セミナー「有農産物について知ろう！～消費者、生産者、小売業者、自治体が共に考えよう食育セミナー～」を開催 令和5年2月18日（日曜日）「ピエラストジオ街田（神奈川県横浜市）」会場開催及びオンライン配信	②③食育推進ポスターの掲示 食育に関する情報発信 ④⑤関東食育推進ネットワーク会員に対して情報提供することで会員の食育連携促進に寄与 ⑥イベントや食・農林漁業体験等の情報、農林水産省や関係機関の食育に係る事業情報を発信することにより、食や農林水産物の関心を高めることに寄与 教育機関や食育実践者から反響 ⑦若い世代への「家庭における食育の推進」 ⑧管内の都県・政令指定都市との情報共有などに寄与 ⑨⑩食育月間セミナー及び食育活動の実践に関する交流会・学協会をオンラインで開催 第4次食育推進計画の重点課題である「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進により様々な各目標の達成や底気の推進に効果を上げる	継続		

		目標4		女性(20歳代)のやせ(低体重)の割合を20%以下にする										全2事業																	
		A		B		C										D		E		F		G		H		I		J		L	
		事業の概要		対象者 (該当に●、保護者を指定する場合は◎)		第3次計画策定時の状況												令和5年度事業実績と評価				令和5年度事業実績と評価				第4次食育推進計画への登録					
課名	計画の 数値目標 番号	事業	事業内容	0 6 歳	6 5 1 1 歳	1 2 0 1 1 歳	2 0 1 2 9 歳	3 0 1 3 9 歳	4 0 1 4 9 歳	5 0 1 5 9 歳	6 0 1 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性		令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由									
健康づくり推進課	1 2 3 4 5	【重点事業】 しずおかカラ ダにeat75 (再掲)	民間企業・大学等と連携し、意見交換会や食育イベントを通じて、まろくるのみで「食」を通じた健康づくり事業を実施する	◎	◎	●	●	●	●	●	●	●	民間企業や大学等との連携を図り事業をスタートした。若い世代は朝食欠食や健康に関心が低いなどの課題が多く、実践面での行動変容に至っていない。	充実	実践的に食習慣の改善に取り組んでもらうよう事業を展開し、各種媒体を活用した情報提供を図る。	・若い世代による食育ワークショップの開催 ・コンビニ、大学との連携によるメニューのPR ・食で始める健康貯金スタートブックの周知 ・スタートブックを活用した講座の開催 ・スーパーとの連携による食と健康イベントの充実	民間事業者と連携した食育教室の開催 食育啓発用まんがを高校生へ配布	民間事業者と連携した食育教室を2回開催 食育啓発用まんが「知って得する食事のアレコレ」を4,000冊、「一人暮らしのどうする?ごはん」を12,000冊増刷し、高校2年生へ「一人暮らしのどうする?ごはん」を約7,000冊配布、その他、保健福祉センター、生涯学習センター、図書館等にも配布した。	A	中北薬品(株)の栄養士を講師に招き、清水桜が丘高校生活研究部の生徒を対象に調理実習を含む食育教室を開催。「外食・ファストフード・市販の食材」についての講義を通して、さらに追加して食べたい調理レシピを検討し、調理・試食することで楽しく学ぶ機会となった。 食育啓発用まんが「一人暮らしのどうする?ごはん」を高校2年生を中心に配布し、朝ごはんの重要性について周知した。	継続										
学校給食課	1 2 4 9	【重点事業】 食に関する指導	・児童生徒に食に関する正しい知識と望ましい食習慣が身につくように、各小中学校で食に関する指導を実施 ・献立表や給食日よりによる情報提供		●	●							H26食育推進状況調査にて68%の学校が「食育の成果が児童生徒に表れている」と回答した。	充実	・各学年1回以上実施 ・栄養教諭・栄養士によるTT授業の充実を図る。	食育推進状況調査にて「食育の成果が児童生徒に表れている」と回答する学校95%を目指す。	各学年1回以上の「食に関する指導」を実施。各学校の状況に合わせて柔軟に対応する。	各学年1回以上実施した学校89.6%	A	小中学校126校中112校で各学年1回以上の「食に関する指導」を実施できた。小学校92.74%、中学校83.6%の結果から中学校における実施率向上が課題である。今後は、一人一台端末等も活用し100%を目指す。	継続										

		目標5												主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合を55%以上にする												全7事業							
		A		B		C												D		E		F		G		H		I		J		L	
		事業の概要				対象者 (該当に●、保護者を指定する場合は◎)												第3次計画策定時の状況				令和5年度事業実績と評価				第4次食育推進計画への登録							
計画の 数値目標 番号	計画 名	事業	事業内容	0 1 6 歳	6 5 1 1 歳	1 2 0 1 1 9 歳	2 0 1 2 9 歳	3 0 1 3 9 歳	4 0 1 4 9 歳	5 0 1 5 9 歳	6 0 1 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由												
健康増進課・健康づくり推進課	68	フレッシュマタニティ教室	・講話(妊娠中の栄養・食生活、食の安全に関する内容)・個別相談										妊婦期の食事に関する講義に調理実習・実習、朝食を併せて行い、妊婦期の健康的な食生活について、理解を深め実践できるように支援している。	継続	食事摂取基準や国民健康栄養調査の結果等、新しい情報を取り入れながら、妊婦期の食生活について、理解を深め実践できるように支援していく。	教室アンケートより食に関する疑問が解消したと回答した割合90%以上	年10回実施 オンライン配信年3回 妊婦中の食生活について、妊婦の不安解消、軽減	年10回実施 (栄養士担当分) 延81人(参加者数) 対面及びオンラインにて講義を実施した。	A	計画通り実施し、満足度は100%であった。	事業名変更	事業名を「マタニティ教室における栄養士講話」に変更											
				【その他】妊婦出産期																													
健康増進課・健康づくり推進課	12511	1歳6か月児健康診察における栄養相談	健康診察時の個別栄養相談	◎									離乳食完了後の栄養バランスや調理方法等について、個別の対応が必要である。平づかみ食への重要性についても指導を行い、子供の食への意欲につながる。	継続	必要な栄養の大部分を食事からとることができ、幼児食へステップアップできるように支援していく。	年間計画通りに実施。個々の対応を行い、幼児期の食生活について、保育者の不安軽減。	年109回実施 幼児期の食生活についての不安軽減及び望ましい食生活についての知識普及	年109回実施 延99人(栄養相談件数)	A	計画通り実施した。	継続												
健康増進課・健康づくり推進課	12611	3歳児健康診察における栄養相談	健康診察時の個別栄養相談	◎									偏食や少食、食べむら等の悩みについて、個別の対応が必要である。食生活の基礎を培う大事な時期であることを保育者に理解してもらうよう指導を行う。	継続	生活習慣病予防や健康的な食生活の基礎となる指導、食に関する不安の解消を図るため、継続的な支援が必要である。	年間計画通りに実施。個々の対応を行い、幼児期の食生活について、保育者の不安軽減。	年112回実施 幼児期の食生活についての不安軽減及び望ましい食生活についての知識普及	年111回実施 延592人(栄養相談件数)	A	計画通り実施した。	継続												
健康増進課・健康づくり推進課	12345	【重点事業】しずおかカラダにeat75(再掲)	民間企業・大学等と連携し、意見交換会や食育イベントを通して、まろくるのみで「食」を通じた健康づくり事業を実施する	◎	◎	◎	●	●	●	●	●	●	民間企業や大学等との連携を図り事業をスタートした。若い世代は朝食欠食や健康に関心が低いなどの課題が多く、実践面での行動変容に至っていない。	充実	実践的に食習慣の改善に取り組んでもらうよう事業を展開し、各種媒体を活用した情報提供を図る。	・若い世代による食育ワークショップの開催 ・コンビニ、大学との連携によるメニューのPR ・食で始める健康貯金スタートブックの周知 ・スタートブックを活用した講座の開催 ・スーパーとの連携による食と健康イベントの充実	民間事業者と連携した食育教室の開催 食育啓発用まんが「知って得する食事のアレコレ」を4,000冊、「一人暮らしのどうする?ごはん」を12,000冊増刷し、高校2年生へ「一人暮らしのどうする?ごはん」を約7,000冊配布、その他、保健福祉センター、生涯学習センター、図書館等にも配布した。	A	中北薬品(株)の栄養士を講師に招き、清水桜が丘高校生活研究部の生徒を対象に調理実習を含む食育教室を開催。「外食・ファストフード・市販の食材」についての講義を通して、さらに追加して食べたい調理レシピを検討し、調理・試食することで楽しく学ぶ機会となった。 食育啓発用まんが「一人暮らしのどうする?ごはん」を高校2年生を中心に配布し、朝ごはんの重要性について周知した。	継続													
健康増進課・健康づくり推進課	56811	おやこの食育教室	子どもの頃からよい食習慣を身につける親子で手軽にできるおやつや献立作り		◎	◎	◎	◎					現状達成	継続	ライフスタイルが変化するなか、家庭で家族が助け合い協力できる食育教室づくり 親子で一緒に楽しむ簡単で安全安心な食材での料理教室	少子化やライフスタイルが変化する中、大事な親子の食育教室で、達成を目指す また、親子で季節の食材を利用して手軽におやつ作りや食事作りができる環境を作ることが目標	2回	5回	A	子育て世代の食の悩みは多く、家庭でも実践しやすい食育(生活リズム、おやつ、はみがき等)について講話や料理教室等を行った。	削除	「楽しく子育て応援教室」等の他事業に含む											
5/17ページ																																	

		目標5		主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合を55%以上にする																		
		A B		C		D		E		F		G		H I J		L						
		事 業 の 概 要		対象者 (該当に●、保護者を指定する場合は◎)		第3次計画策定時の状況						令和5年度事業実績と評価				第4次食育推進計画への登録						
課 長	計画の 数値目標 番号	事 業	事 業 内 容	0 1 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 1 1 9 歳	2 0 1 2 9 歳	3 0 1 3 0 歳	4 0 1 4 9 歳	5 0 1 5 9 歳	6 0 1 6 9 歳	7 0 歳 以 上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評 価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由	
26	5 6 9 11	給食参観	保護者に給食参観をしていただき子どもと一緒に給食を食べ、実施についても話をする。	●◎									自分の子どもの食べる量、速さと他の子どもとの比較ができた。給食の献立などを参考に、ご家庭の食卓にも取り入れた保護者がいた。	継続	継続して子どもの食事の様子を保護者に伝えていく	各園で実施1回～3回	給食参観などで子どもの食べている様子を覚えていただく。食育日よりなどで様子を発信する。	給食参観を実施することにより、食事の様子を保護者に伝えていくことができた	A	給食参観の実施や食育日よりなどで子どもの食事の様子を伝えることができ、親子の会話や家庭の食事の工夫につながることができた	継続	
27	1 6 1 3	【重点事業】 栄養士について学ぶ	食育について、ベーパーサートや根芝席等とわかりやすく伝える	●									保護者自信が意識することにより、子ども達に伝えようとするので、子どもも興味を示し理解しやすくなった	継続	継続して食育に興味をもてるような教材を使っていく	各園で実施	食育に関して興味をもてるような教材を開発し、栄養士など分かりやすく伝えていく。	3色の食品群の表を献立表に記したり掲示し、根芝席やエプロンシアターなど、子どもなりに興味を持ち理解できるようにした	A	給食の献立の材料それぞれに役割があることを子供なりに理解できた。食育について日常の中で自然に理解できるようになった	継続	

		目標6										全4事業																		
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合を70%以上にする																														
		A		B		C				D		E		F		G		H		I		J		L						
		事業の概要		対象者 (該当に●、保護者を指定する場合は◎)				第3次計画策定時の状況				令和5年度事業実績と評価								第4次食育推進計画への登録										
		事業		事業内容		0 1 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 1 1 9 歳	2 0 1 2 9 歳	3 0 1 3 9 歳	4 0 1 4 9 歳	5 0 1 5 9 歳	6 0 1 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題		平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性		令和5年度末目標値		実施計画(評価指標)		実績(成果)		評価	評価の理由と課題		事業の 方向性	削除の理由	
課名	計画の 数値目標 番号	6	【重点事業】 元気で長生き 栄養講座	介護予防についての 講話、調理実習、試 食									●	65歳以上	継続	食事バランスを見直す きっかけとなり、また参 加者同士の交流の場も なり、利用者の満足度 が高い。会場により参 加者にばらつきがあっ たり、リピーターが多 く、新規参加者が少な い傾向にある。	継続	低栄養予防・食事バ ランスの重要性を知っ てもらう。また、共食 の良さを感じてもらっ たことで食への興味を 高める。 新規参加者獲得のた め、PR方法を工夫す る。	・各種イベント等でチ ラシ配布などのPR ・交流会、交流セン ター等との連携	年15回実施 低栄養予防に関する知 識の普及	年16回実施 延125人(参加者数) 低栄養予防に関する講 義と体験活動	A	計画通り実施した。理 解度は86%、満足度 は99%であった。	継続						
課名	計画の 数値目標 番号	5 6	男性料理教室	男性のための料理教 室				●	●	●	●	●	●		継続	食材の栄養価や調理の 基本を知ることはもち ろんだが自分たちのた めの食事を作ることが 出来る環境を提供す る。	2次計画では不十分だ ったので、今後の高齢 化の時代を見据えた男 性のための料理教室の 展開	1回	0回	D	男性料理教室はコロナ 禍に一度開催を休止。 依頼があれば対応して きたが、今後は他の事 業に含めていくことに する。	削除	「骨と体に良い料理教 室」「生活習慣病料理 教室」等の他事業に 含む							
課名	計画の 数値目標 番号	6	高齢者向け教室	低栄養及び認知症予 防等高齢者向け教室								●	●	達成	継続	低栄養予防や認知症 予防等高齢者にむけ た家庭での実践に結 び付け教室実施	今後、高齢化が進む 中での低栄養予防や 認知症予防を家庭で の実践に向けて達成 努力	10回	33回 (シニアカフェを含 む)	A	コロナ禍で集団での 教室開催が困難とな った時から、高齢者 を少人数で集めて講 話等を実施するシニ アカフェを継続して いる。	継続								
課名	計画の 数値目標 番号	6 10 4	食育教室(学 校・幼稚園等)	子どもを対象に食の 大切さの啓発活動		●◎	●◎								継続	現状、概ね成果をあげ られている。	継続	幼児から小学生まで 食の大切さと感謝の 心を育てていく啓発 活動に取り組む。	幼児から小学生まで 食の大切さの啓発活 動100%の達成	10回	7回	B	依頼事業のため子 どもが少ない地区 では参加者が集ま らず、実施ができ なかった。実施が できなかった分は 他事業を開催す るなどして対応し た。	削除	「楽しく子育て 応援教室」等の 他事業に含む					

目標7			生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民の割合を65%以上にする										全10事業													
A B			C										D		E		F		G		H I		J		L	
事業の概要			対象者 (該当に○、保護者を指定する場合は◎)										第3次計画策定時の状況				令和5年度事業実績と評価		第4次食育推進計画への登録							
計画の 数値目標 番号	事業	事業内容	0 1 5歳	0 1 1歳	1 2 5歳	2 0 1 2歳	3 0 1 3歳	4 0 1 4歳	5 0 1 5歳	6 0 1 6歳	7 0 歳以上	現状・課題	平成30～令和6(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由						
英和・静岡市清水区	47	健康まつりにおける栄養相談	●◎	●	●	●	●	●	●	●	●	幅広い世代に食生活に関する情報提供ができた。また市で開催する教室のPRにもつながられた。媒体の検討や食糧などの関係団体との連携が必要。	継続	参加者が興味を持つような媒体やパンフレット等を活用し情報提供する。また、関係団体と連携し、市の事業への参加につながる。	・幅広い世代への情報提供。 ・分かりやすい資料の活用。	中止を決定している回もあるが、実施については状況を見て決定予定。	年3回実施(地区まつり含む) 延53人(栄養相談件数)	A	リーフレットや食品サンプル等を提示しながら個々の相談に対応した。	継続						
養父・静岡市清水区	7	ヘルスアップ食事相談						●	●	●	●	個別相談により、個々に沿った対応を行っている。また、相談者が行動変容し、それを維持できるように支援している。拒否率が高く、電話等で接触を促すが、接触不可になることも多い。	継続	特定保健指導の一環として今後も継続。継続率が上がるような取組を実施する。	・接触率の向上(電話・面談を含む)	年72回実施 随時の栄養相談にも必要に応じて対応していく。	年47回実施 延59人 設定日での実施ではなく随時の相談対応回数を増やしたため年54回に計画変更	A	設定日でなく随時での実施を増やすことで、より利用者が利用しやすい形で実施できた。	継続						
高田・静岡市清水区	7	【重点事業】 食生活サポート講座							●	●	●	テーマ別、または、特化型にすることで、参加者自身も具体的に実践方法を理解しやすい。調理実習を通して、調理のポイントや自身にあった食事量の確認ができています。参加者の常連化や参加者数が少ないことがある。	継続	特定保健指導対象者の参加も多く、自らの一部分の食事量を知ることや気づきに繋がっているため、今後も継続していくことが必要。参加者確保のためPR法を工夫する。	・ヘルスアップ食事相談や各種イベント等でチラシ配付などのPR。 ・年間計画通りの実施。	年17回実施 食事量や食事バランスについての知識普及	年17回実施 延101人(参加者数) 自分に合った食事量や食事バランスについての講義を実施	A	計画通り実施し、理解度は96%、満足度は95%であった。	継続						
養父・静岡市清水区	7	健康相談(随時)	◎	◎	◎	●	●	●	●	●	●	個々の相談内容に沿った資料等を活用し、行動変容できるよう支援している。	継続	個々の相談に広く対応できるように、食に関する知識や資料の更新をしている。	個々の相談に広く対応する。	対応依頼がある場合(電話、来所、訪問)には、随時対応する。	延303人(相談件数) 内訪問による指導は18件	A	希望者に対し、個々の悩みに応じた栄養相談が実施できた。	継続						
食品衛生課	378	栄養成分表示促進事業	●	●	●	●	●	●	●	●	●	一般加工食品の栄養成分表示完全義務化に向け、食品関連事業者が自ら栄養成分表示をするための知識及び技術習得の支援を強化する必要がある。併せて市民が自ら健康的な食生活を実践するため、栄養成分表示に関する情報提供を図る。	継続	食品関連事業者が自ら栄養成分表示をするため、知識及び技術の習得を支援する。併せて市民が自ら健康的な食生活を実践するための、栄養成分表示が義務化となる令和2年4月以降は事業見直しの可能性あり。	年5,000部 年2回	年5,000部 (1,000部+4,000部) 年2回	栄養成分表示のあるお惣菜店との紹介パンフレット 4000部作製 消費者庁関連資料 1000部作製 食べ方スキルアップ！ 栄養計算と食品表示の見方の講座 年2回開催	A	計画通り実施できた。栄養成分表示の協力店は178店舗が登録しており、パンフレットを通じて市民への周知を図った。講座には予定の定員数を超える申込があり、多くの参加があった。	継続						
児童・生徒支援課	7	健康教室		●	●							個別指導として行う栄養指導は充実した内容で実施しており、参加者のアンケートからその様子がうかがえる。現在1回に70組程度の希望者が参加している。	継続	現在の方法で継続していく予定である。	・1回目参加者80～100名 ・2回目参加者80～100名	1 教室開催年2回実施 2 受講家庭での生活習慣への意識が改善	1 教室開催年2回(7月・11月)実施 2 「生活習慣を見直し、現在も実践している」と回答した家庭40%	B	教室開催は目標通り実施できた。生活習慣を見直し、実践の継続を支援できる手立てを検討していきたい。	削除	静岡市の事業ではないため削除					
静岡農林畜産協会	47	しずおかアクティブ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	決められた2日間のなかでフル稼働している	継続	現状維持	現状維持	開催となった場合、「r-body測定、栄養相談	不参加	D	次年度の参加については検討中	継続						
静岡農林畜産協会	7	栄養士研修会			●	●	●	●	●	●	●	毎年コンテストに事例を発表していくれている	継続	現状維持	現状維持	昨年同様に事例に基づいた報告等による研修	120名が参加	A	多くの参加者があり、計画通り実施することができた。	継続						

		目標7		生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民の割合を65%以上にする																			
		A B		C						D		E		F		G		H I		J		L	
		事 業 の 概 要		対象者 (該当に○、保護者を指定する場合は◎)						第3次計画策定時の状況						令和5年度事業実績と評価						第4次食育推進計画への登録	
計画の 数値目 標番号	事業	事業内 容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 0 1 2 9 歳	3 0 5 3 9 9 歳	4 0 1 4 9 9 歳	5 0 1 5 9 9 歳	6 0 1 6 9 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5（2023）年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画（評価指標）	実績（成果）	評 価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由				
調理師協会	7 8 15	調理師資質向上対策事業					【その他】 調理従事者				・飲食店等で従事する調理師に対し、調理業務に関する資質向上を図った。	継続	調理師研修を行った調理師等の資質向上を図る	研修会20回（県全体）	募集方法を工夫し多くの調理師に参加していただくようにしていく。	県下5か所（うち静岡市2か所）にて衛生管理に関する講習会を開催した。	B	調理従事者に対し講習を通じて衛生管理の知識の向上を図ることが出来た。参加者を増やしていくことが課題となる。	継続				
静岡県生活習慣病予防推進委員会	7	【重点事業】生活習慣病予防教室				●	●	●	●	●	達成	継続	減塩料理を通して生活習慣病予防の知識を身に付け、家庭で実践できる講話と料理実習をおこなう。	高齢化が進む中、今後重要な事業であり減塩生活習慣病のための家庭で簡単にできる料理の実践。	18回	78回	A	骨と体に良い料理教室、減塩料理教室、低栄養予防料理教室等を開催。効果が多かったため、予定より多く開催することができた。	継続	骨と体に良い料理教室は、第4次計画では別の事業として評価していく。			

		目標8		食品の安全性について基礎的知識をもつ市民の割合を70%以上にする										全10事業							
		A B		C										D E		F		G H I J		L	
		事 業 の 概 要		対象者 (該当に○、実施者を指定する場合は◎)										第3次計画策定時の状況		令和5年度事業実績と評価		第4次食育推進計画への登録			
計画の 数値目 標番号等	事 業	事 業 内 容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 0 1 2 9 歳	3 0 5 3 9 9 歳	4 0 1 4 9 9 歳	5 0 1 5 9 9 歳	6 0 1 6 9 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5（2023）年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画（評価指標）	実績（成果）	評 価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由		
42	食品衛生課	6 8【重点事業】 食の安全教室		●	●						毎年一定数の応募があり、おおむね高い満足度を得ている。応募数によっては対応する課の負担になる点が課題であり、今後も調整を図る。	継続	授業内容の更なる充実を検討する。	30校	12回	12回	A	予定通りの実施数となった。応募数が増加した場合の受け入れ態勢の整備が課題である。	継続		
43	食品衛生課	8食の安全・安心に関するリスクコミュニケーション		●	●	●	●	●	●	●	利用者の満足度はおおむね高い。内容を充実させるため、その時々合った話題を取り入れていく。	継続	内容の更なる充実を検討する	3回	出前講座は申し込みに応じて実施予定 マタニティ教室 10回	出前講座は4回 マタニティ教室 8回	A	概ね予定通りの実施数となった。マタニティ教室は、令和6年度から食品衛生課の時間を設けて行わないこととなったため、代替方法を検討中である。	継続		
44	食品衛生課	8給食施設研修事業				【その他】 給食施設従事者					参加者は年々増えているが、当該講習会に参加できない施設もある。衛生知識を習得するための講習会等への参加を呼びかけていく必要がある。	継続	市内給食施設における食品の危害発生・食中毒予防、給食従事者の資質向上を図る。	年3回	年3回	衛生講習会 年3回実施	A	計画通り実施できた。通信環境等を整えたことで、会場参加の他オンラインでの参加も多く、参加者の利便性向上を図ることができた。	継続		
静岡県給食協会	7【再掲】 栄養士研修会	栄養アセスメントについての講習会、事例研究発表		●	●	●	●	●	●	●	毎年コンテストに事例を発表していくれている	継続	現状維持	現状維持	昨年同様に事例に基づいた報告等による研修	120名が参加	A	多くの参加者があり、計画通り実施することができた。	継続		
静岡県給食協会	8衛生講習会	衛生講習会（食中毒関連講演）		●	●	●	●	●	●	●	4回の実施日で、400名以上の参加がある	継続	現状維持	現状維持	昨年同様に食中毒に関する資料送付等	198施設が参加した。	A	全施設参加となった。	継続		

		目標8		食品の安全性について基礎的知識をもつ市民の割合を70%以上にする																		
		A B		C							D		E		F		G		H I J		L	
		事 業 の 概 要		対象者 (該当に●、無該当を○とする場合は○)							第3次計画策定時の状況					令和5年度事業実績と評価					第4次食育推進計画への登録	
課名	計画の 数値目標 番号	事 業	事 業 内 容	0 5 歳 児	6 5 1 1 9 歳 児	1 2 3 1 9 歳 児	2 0 5 1 2 0 歳 児	3 0 5 3 4 9 歳 児	4 0 5 5 9 歳 児	5 0 5 6 9 歳 児	6 0 5 6 9 歳 児	7 0 歳 以 上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由	
46	時間栄養 協会の 見学研修	8	見学研修会(食堂・ 厨房・調理器具の実 演見学など)				●	●	●	●	●	●	20名程度の参加	継続	現状維持	現状維持	新型コロナウイルスに配慮し、希 望によって開催を調整す る	フードケータリング ショー見学 10名が参加	A	計画通り実施することができた。	継続	
消費生活 センター が 会 市		8	グリーンコン シューマー講座 第3～(仮)エシ カル消費と家庭 の食事	◎	◎	●	●	●	●	●	●	●	生活改善、社会貢献につ ながるものを意識的に選 択できるようきっかけ作 りができた。独自の事業 として開催する場合は クッキング教室と一緒に 開催している	継続 充実	講座を6回にする	グリーンコンシュー マーになるためパンフ 作成配布する等	講座実施	講座実施	A	計画通り実施することができた。	事業名・事業 内容変更	事業名を 「エシカル消費推進のための講 座・セミナーの開催」として新 しく開始
48	静岡市食 品衛生協 会	3	「食品衛生月 間」街頭広報活 動(8月初め)		●	●	●	●	●	●	●	●	・食品衛生月間(8月) のウィークデーの初日に 実施しているが、曜日、 天候によって人通りの多 少がある ・清水区での実施する場 所に入道りが少ない	継続	家庭内での食中毒防止 の推進	家庭内の食中毒の発生 を抑える。	・静岡駅改札口での啓発 活動 ・松坂屋への懸垂幕の掲 出 ・保健所周辺へののぼり 旗の掲出 ・保健所公用車に食中毒 防止のマグネットを貼っ てもらう	・JR静岡駅北口地下イ ベントスペースから静 岡駅コンコースにおい て食中毒予防啓発品 2000セットを配布し た。(8月1日) ・松坂屋への懸垂幕の 掲出実施。(8月中) ・保健所周辺へののぼ り旗の掲出実施。(8月 中) ・保健所公用車に食中 毒防止のマグネット掲 出実施。(8月中)	A	・令和元年に実施して以来の5年 ぶりの街頭キャンペーンであ ったが、炎天下での活動をやめ、通勤 ラッシュ時の配布としたため、短 時間で効率的な活動が実現でき た。 ・食中毒は家庭でも起こりうると いう前提のもと様々な側面からの 各家庭への啓発を実施できた。	継続	
49	静岡市食 品衛生協 会	3	「時間食協 ニュース」の編 集、発行(年4 回)										・掲載する行政や日食協 の情報は、会員と とって非常に重要である ので、情報提供のツール として有意義である。	継続	食の安全の確保に向け て、今後も行政情報等 を提供し業界の食品衛 生の向上を図る。	会員である食取扱い い事業者が食協ニュー スで得た情報をもとに 衛生管理の徹底を図 る。	・年4回(タブロイド版 4項)静岡市食品衛生 協会機関紙として発行 (360部×4回)	・年4回(タブロイド 版4項)静岡市食品衛 生協会機関紙として発 行(3610部×4回)	A	・令和3年6月に施行された改正食 品衛生法により制度化された HACCP制度や食品表示に関する最 新情報などを会員に寄りやすく提 供できた。	継続	
50	静岡市食 品衛生協 会	8	地域のお祭り等 の「バザー等開 催促進」提出団 体への消毒薬の 提供	●	●	●	●	●	●	●	●	●	町内会をはじめとして、 バザー開催団体の担当者 が翌年は変わってしまう ことが多く、その場では 手洗いの重要性を理解し てくれるが、次年度への 継続性がまだ感じられな い。	継続	食品取扱いの際には 手洗いがいかに重要か を説明し、食の安全へ の意識の向上を図る。	・「バザー等開催促進」 提出団体の皆さんは毎 年定例的にやっている 事業であり、食品の取 扱いに際して、手洗いの 重要性への理解と普及 を図り習慣化する。 ・バザーによる食品の 取り扱いに際して、事 故が起きないようにす る。	提供消毒薬 500ml× 200団体 手洗いのリーフレット	消毒薬・リーフレット の提供 165団体 (静岡56団体清水109団 体)	A	・コロナ以前のバザー実施状況に 戻った。 ・食中毒に特化して共済保険等へ の加入促進にも繋げることができ た。	継続	

		目標10		定期的に歯科健診を受診している市民の割合を80%以上にする																								
		A		B		C							D		E		F		G		H		I		J		L	
		事 業 の 概 要		対象者 (該当に●、保健者を指定する場合は○)							第3次計画策定時の状況							令和5年度事業実績と評価							第4次食育推進計画への登録			
番号	計画の 数値目標 番号	事業	事業内 容	0 1 5 歳	6 5 1 1 9 歳	1 2 2 1 9 歳	2 0 1 2 6 歳	3 0 3 3 9 歳	4 0 3 3 9 歳	5 0 1 5 9 歳	6 0 1 5 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5（2023）年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画（評価指標）	実績（成果）	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由							
55	9 10	健康づくり推進課 1歳6か月・3歳児健康診査における歯科相談	健康診査時における個別歯科相談	●○									幼児期のむし歯は減少傾向にあるが、むし歯のない児とある児の格差の解消が課題となっている。むし歯リスクの高い児（ハイリスク児）に対し歯科保健指導を実施し、必要のある児については健診後のフォローや他機関との連携により支援している。	継続 多職種連携のもとむし歯リスクの高い児（ハイリスク児）に対する重点的な指導を行い、健康格差の解消を目指す。また、かかりつけ歯科医での定期歯科健診受診を勧奨していく。	・3歳児むし歯有病者率12%以下 ・ハイリスク児に対する指導及び個別フォローの徹底	必要な児に対する指導（相談）の実施 来所や電話による個別フォロー	1歳6か月児：相談者792人 3歳児：相談者366人 来所や電話による個別フォローの実施	A	必要な児に対し、歯科保健指導の実施、来所や電話による個別フォローを行った。	削除	事業名「1歳頃のむし歯予防事業」に移行							
56	9 10	健康づくり推進課 乳幼児むし歯予防事業（委託）	未就学児を対象とした、歯科健診と歯科保健指導の実施	●○									2歳代から継続的に参加している児が多いが、自由参加のため、参加していない児も多い。かかりつけ歯科医での定期的な歯科健診受診を推進するために、さらに効果的な事業となるよう検討していく必要がある。	充実・改善 早期からのかかりつけ歯科医での定期的な歯科健診受診をするためのきっかけ作りの場として教室を継続実施するとともに、教室のあり方については、関係団体と協議のうえ効果的な事業実施を目指す。	・3歳児むし歯有病者率12%以下 ・5歳児むし歯有病者率30%以下	年52回開催 参加者数 1,760組	年52回開催 参加者数 1,047組	A	参加者数は想定を下回ったが、回数については当初の予定通り開催し、歯科保健指導を実施することができた。	削除	事業名「1歳頃のむし歯予防事業」に移行							
57	9 10	健康づくり推進課 フッ化物洗口法によるむし歯予防事業	永久歯の歯科強化とむし歯の半減を目指す「歯の健康づくり」を推進するため、就学前の4・5歳児を対象としたフッ化物洗口法を実施	●○									対象となる施設（こども園・幼稚園・保育園）のうち、7割以上の施設で実施できている。私立幼稚園での実施率が低く、協力が得られていない。	充実 歯みがき巡回指導等を通じ、各施設に対し「フッ化物洗口法」に関する正しい知識を普及し、実施拡大に向けた取り組みを行う。	・12歳児（中学1年生）の一人あたりむし歯本数0.3本以下 ・フッ化物洗口実施施設数8割以上 ・施設でのフッ化物洗口に関する事故ゼロ	希望園に対し、全面実施 未実施園に向けた推進 フッ化物洗口の正しい知識を普及	希望園に対し、全面実施した。 135園、5,234人が実施 未実施園に向けた推進 フッ化物洗口の正しい知識を普及	A	希望する園には全面実施した。実施を検討している園に対しては、職員向け説明会等を実施した。	削除	事業名「幼児期の歯科口腔保健支援事業」へ移行							
58	10	【重点事業】歯周病検診	勤務先などで検診を受ける機会がない40歳以上の方を対象に歯周病検診を実施						●	●	●	●	—	継続 40歳になる方を対象に、「無料の歯周病検診」を実施する。また、「成人健診するわかりガイド」の全戸配布や各種キャンペーン等を通じて検診制度を住民に周知する。	検診の実施 検診の委託実施 検診周知事業の実施 歯ピカ検診受診券やトリプル検診受診券の送付	検診の委託実施 検診周知事業の実施 歯ピカ検診受診券やトリプル検診受診券の送付	A	計画通り滞りなく検診委託、検診周知事業及び受診券送付ができています。	継続									
59	10	妊婦歯科健診	妊婦を対象とした歯科健康診査及び歯科保健指導の実施		●	●	●	●					受診率は経年で増加傾向にある。定期健診の重要性を周知し、より高い受診率を目指す。	継続 受診票交付時の事業説明を引き続き丁寧に。定期健診の重要性について、引き続き周知を行う。仲間・清水両歯科医師会との連携。	受診率47.7%	受診率52.6%	受診率50.6%	A	計画どおり事業実施が完了した。今後も継続して、母子健康手帳交付時に定期健診の重要性を周知していく。	継続								
60	10	歯と口の健康	幼児から高齢者まで年齢に合わせた講話	●○	●○	●	●	●	●	●	●	●	現状ほぼ達成	継続 幼児期から高齢者まで、歯と口の大切さを伝えるための講話を実施して。	今後今まで以上に力を入れ、全ての事業の中で歯と口の健康についての講話を入れていく事を目標とする	45回	57回	A	各事業の中で啓発活動を行った。8020推進員研修会を定期的に開催し、全推進員で市民に周知をしていくようにしていく。	継続								

		目標11		毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合を85%以上にする										全3事業													
		A		B		C						D		E		F		G		H		I		J		L	
		事業の概要		対象者 (数値に●、無回答を○とする場合は○)						第3次計画策定時の状況						令和5年度事業実績と評価						第4次食育推進計画への登載					
計画 の 数値 目標 番号	事業	事業内容		0 5 歳	6 5 1 1 9 歳	1 2 3 9 歳	2 0 5 1 2 9 歳	3 0 5 4 9 歳	4 0 5 9 歳	5 0 5 9 歳	6 0 5 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末日目標値	実施計画（評価指標）	実績（成果）	評価	評価の理由と課題		事業の 方向性	削除の理由					
英 語 学 習 実 践 会 （英 語 学 習 実 践 会 ）	1 5 11	おやこ食育教室	講話、紙芝居、エプロンシアター、調理体験	●○									おやつを含めた幼児食の基礎、お手伝いのきっかけづくり、子どもに食べの興味をもってもらうなど、家庭で継続して食育ができるような食卓づくりを行っている。新規参加者の確保、調理体験のみが目的の参加者への働きかけが課題。	継続	親子で食に関する知識と食を選択する力を習得する機会となる教室にする。併せて共食の推進に取り組む。	教室アンケートより朝食欠食率の低い世代：10%以下	年25回実施 幼児食の食生活についての不安軽減及び正しい食生活についての知識普及	年21回実施（4回中止） 66組 延132人（参加者数） 幼児食についての講話と体験活動の実施	B	理解度、満足度は100%であった。会場により、応募者が無く中止になった回がある一方、定員を上回る回もあった。次年度は、多くの方が参加できるよう開催会場を一部見直す。		継続					
	静岡市子ども発達食育会	11	サマーキャンプ	子ども達で献立を計画し、2日間の野外活動を実施する予定	●○	●	●	●	●	●	●	●	子ども達は班に分かれて炊飯活動をした中で同じ材料を使っても違うものができたがみんなおいしく出来上がった	見直し・改善	年齢の違う子どもたちが家庭では味わえない自然の中で強さややさしさを身につける	自然の大切さ、他人への思いやり、命の大切さを身につける	サマーキャンプの開催	食材を使い切り味付けを工夫しながら食の大切さを知る事ができた。	A	献立、食材は同じでも味付けに依ってグループで味の新しい発見が見えた		継続					
静岡市食生活改善推進協議会	9 10 11	【重点事業】楽しく子育て応援教室	絵本紹介や折り紙、紙芝居、おやつづくり、料理の紹介など、子どもと親と食生活改善推進員が楽しむ場の提供	●○	●○	●○							子育てが楽しい環境の一つとして食事作りの楽しさを知ってもらうことが出来た。100%達成	継続	親子を対象に講話や料理体験を行い一緒に食卓を囲む機会を作る。	平成30～34年度全ての年度での100%達成が目標	14回 （地区によっては年1回開催予定の地区もあり）	13回	A	子どもが少ない地区では回数を減らして、高齢者を対象とした事業に代えて対応したため、目標には達しなかったが、概ね計画通りに実施ができた。		継続					

		目標12		食品ロス削減のために行動している市民の割合を55%以上にする										全2事業								
		A B		C					D E		F		G H I J		L							
		事 業 の 概 要		対象者 (前年に●、無回答を○とする場合は◎)					第3次計画策定時の状況			令和5年度事業実績と評価				第4次食育推進計画への登載						
計画の 数値目標 番号	計画の 数値目標 内容	事業	事業内 容	0 5 歳	6 5 1 1 9 歳	1 2 3 9 歳	2 0 5 1 2 9 歳	3 0 5 4 9 歳	4 0 5 9 歳	5 0 5 9 歳	6 0 5 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5（2023）年度の 取組の方向性	令和5年度末日目標値	実施計画（評価指標）	実績（成果）	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由	
14	この事業は継続	12	【重点事業】 食品ロス削減 対策事業	◎	◎	◎	●	●	●	●	●	●	—	充実	食品ロス削減対策について、幅広い対象へ周知を図るために、イベントなどの機会をとらえて啓発活動を実施し、市民へ意識の浸透を図っていく。	・小学生へのごみ減量啓発講座での食品ロス啓発機会の確保・しずおか市消費者協会など他団体との連携による幅広い啓発活動の実施	①フードドライブ啓発キャンペーンの実施（1回） ②食品ロス削減キャンペーンの実施（1回） ③出前授業の実施（清掃工場見学時の講座も含める）（20回） ④シズオカたばきり協力店新規登録（35店舗）	①フードドライブ啓発キャンペーンの実施（市内事業者：10回、市内学校：7回） ②食品ロス削減キャンペーンの実施（1回） ③出前授業の実施（学校44回、沼上講座76回） ④シズオカたばきり協力店新規登録（17店舗）	A	食品ロス削減に向けて、様々な事業者や市内学校関係者から協力を得ることができたため、当初目標を上回ることができた。シズオカたばきり協力店については、新規登録や継続の意欲を向上させるため、Instagramを活用した情報発信を実施した。	継続	
		12	スマートキッチン	環境にやさしい料理教室	●	●	●	●	●	●	●	●	●	成果は、おおむね達成	継続	食材の使い切り、買い物から片付けまで環境に配慮した調理実習を行う	食材の使い切り、買い物から片付けまで環境にやさしい料理教室の実施の100%達成をめざす	4回（調理実習）	3回	B	料理教室を含む教室は3回実施で目標には届かなかったが、冬事業の中で環境に配慮した食生活について講話を40回行った。	継続

		目標13 地元(静岡市)で生産されたものを日頃から購入するようにしている市民の割合を30%以上にする										全10事業																	
		A		B		C								D		E		F		G		H		I		J		L	
		事業の概要		対象者 (該当に○、関係者を指定する場合は◎)								第3次計画策定時の状況						令和5年度事業実績と評価						第4次食育推進計画への登録					
課名	計画の整理番号	事業	事業内容	0 5 歳	6 1 1 歳	2 0 1 1 歳	2 0 1 2 歳	3 0 1 3 歳	4 0 1 4 歳	5 0 1 5 歳	6 0 1 6 歳	7 0 歳以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の取組の方向性	令和5年度末日目標	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の方向性	削除の理由								
96 静岡市農業協同組合	13	静岡市認定農業者協会「春の市・秋の市・冬の市」	認定農業者による農産物の対面販売	●	●	●	●	●	●	●	●	●	生産者が直接対面販売することで消費者に対して地産地消をPRできている。積極的な広報活動により毎回来場者は増加傾向にある。	継続	引き続き地産地消のPRの場として事業を継続していく。	秋(11月)・冬(1月)・春(3月)の年3回開催。	ともびき市(年2回)・秋(11月)・冬(1月)・春(3月)年3回開催予定	秋(11月)・冬(1月)・春(3月)年3回開催	A	ともびき市は関係機関の都合により開催が見送ったが、その他の事業は予定通り開催できた。さらなる来場者増加のため、広報活動を強化する必要がある。	事業名変更	事業名を「静岡市認定農業者協会『秋・冬・春の市』」に変更							
97 ①島田市山梨県産品振興協議会	13	産業フェアしずおか	地場産物や加工品の試食、販売、PR	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2日間で87,000人の来場者に市内産農水産物について理解を深める機会を提供し、広くPRすることができた。 加工品の試食、販売は充実しているが、体験コーナーを設け、「農水産業」への関心を更に深める必要がある。	継続	地場産品や加工品の試食、販売、体験コーナーにより、市民に市内産農水産物への理解と関心を深める。	2日間開催	2日間開催(11/25,26)	2日間開催(11/25,26)	A	①2日間で34,300人の来場者に市内産農産物について理解を深める機会を提供し、広くPRすることができた。 ②計画通り実施できた。 ③林業体験事業や市産木材の加工品の販売を通じて、来場者に林業への理解を深める機会を提供し、市産材を使用した加工品を広くPRすることができた。	継続								
98 清水漁業協同組合	13 14	用宗漁港まつり	・水産物、加工品の試食、販売(生しらす、希釈しらす等) ・水産物を使った料理の販売(しらす丼) ・体験乗船 ・模造せり など	●	●	●	●	●	●	●	●	●	生しらす、しらす加工品の販売、模造せりや体験乗船を通して、地域の漁業、水産物、魚の食べ方などへの関心や理解を深めることができる。	継続	引き続き、「しらすまえ」と「しらす」を広くPRすることにより、地産地消及び魚食の普及推進を図り、地域の活性化に繋げる。	来場者数50,000人	来場者数50,000人	来場者数30,000人	B	天候不良により一日延期となってしまったが、生しらす、しらす加工品の販売、模造せりや体験乗船を通して、地域の漁業、水産物、魚の食べ方などへの関心や理解を深めることができた。	継続								
99 学校給食課	13 14	【重点事業】地場産物を取り入れた献立の提供	県内産食材や地域の食文化を生かした献立を実施	●	●								学校給食における地産地消率44.6% (6月・11月のふるさと給食週間に限定) ※現在109年度調査中。数値は108年度のもの。	継続	地場産物を活用した献立を提供し、献立表などでPRする。	学校給食における地産地消率の40%を維持する。	給食実施日には地場産物を使用した「ふるさと給食」を実施。6月と11月には連続5日間地場産物を使用する「ふるさと給食週間」を実施する。	地場産物を使用する「ふるさと給食の日」と年間2回の「ふるさと給食週間」に加え、年間を通して様々な地場産物の使用を意識した献立作成をした。	A	毎月の「ふるさと給食の日」と年間2回の「ふるさと給食週間」に加え、年間を通して様々な地場産物の使用を意識した献立作成をした。	継続								
70 静岡市農業協同組合	13	地産地消活動(商店街・店頭販売)	地場産品の販売	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・毎月コンスタントに出店したいが、イベント開催がふりがちで、出れない場合もある。	継続	・なるべくイベントを開催し、ほかのイベントへも積極的に出店する。	・年間30回以上イベントへ出店・また産直市では月に2度イベント開催及び、各支店にてJAまつりを年に1回開催	イベントを開催していく。またイベント出店等の依頼があれば参加をする。JAまつりは開催予定であるが、支店(運営委員会)の判断により決定。	5店舗のじまん市でイベントを開催し、旬の農産物の販売を行った。コロナも5期に分類され、JAまつりも開催した支店もあった。	A	コロナも少し納まりイベント等も取りつつ予定ものびている。柑橘類、茶販売において規約を見直し、地区限定の制限等を解除し、全じまん市へ出荷できるようにした。売り上げにもつながった。	継続								
71 静岡市農業協同組合	13	しずおか畜産まつり	・畜産物の販売、食体験 ・加工品づくり体験	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・産直市やJAまつりと合同で開催。	継続	・するが年のPR活動の一環として継続	・継続開催(年間1回程度)	他のイベントと合同で開催。	南部じまん市(直売所)と合同で開催をした。	A	直売所と合同で開催をしたため、多くの方にするが牛をPRすることが出来た。イベントでは、牛乳の無料配布や増肥の無料配布も行った。	継続								
72 清水漁業協同組合	13	地元の海産物(しらすをメインに並べてみよう)(仮称)	・小学校での家庭科、課外学習及び学校給食への食材提供 ・地元の海産物・漁具・漁法の理解と「私がまち」の両隣りや地元ブランド(しらす)の普及の目的もきき活動の実施	●	●	●	●	●	●	●	●	●	人気のある講座で、受講者の満足度も高い。しかし市場でのシラス水産物学校は、シラスの漁況によるので、水揚げが少ない時の受講者への対応に工夫が必要である。	継続	—	静岡市長田生涯学習センター主催の為、協議しながら充実した講座にしていきたい。	年1回程度開催予定	長田生涯学習センター主催で8月10日に開催した。	A	計画通り実施できた。	継続								
73 清水漁業協同組合	13	【重点事業】しらすを食べる会(イベント協力)	地元ブランド(しらす)の普及	●	●	●	●	●	●	●	●	●	イベント開催時に、生シラスが確実に用意出来るかが課題です。(シラス漁況により好不漁がある為。)	継続	—	イベント主催者と協議しながら、更なるPR活動をしていきたい。	未定 大漁になれば開催を検討する。	11月11日に開催した。(清水漁業協同組合ではしらすを提供)	A	計画通り実施できた。	継続								

		目標13		地元(静岡市)で生産されたものを日頃から購入するようにしている市民の割合を30%以上にする																					
		A B		C								D		E		F		G		H I		J		L	
		事 業 の 概 要		対象者 (該当に●、保護者を指定する場合は○)								第3次計画策定時の状況						令和5年度事業実績と評価						第4次食育推進計画への登録	
計画の 数値目標 番号	事業	事業内容	0 5 歳	6 5 歳	1 2 歳	2 3 歳	3 4 歳	4 5 歳	5 6 歳	6 7 歳	7 0 歳以上	現状・課題		平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性		令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)		実績(成果)		評価	評価の理由と課題		事業の 方向性	削除の理由
74	13	【重点事業】 地産地消活動 (商店街・店 舗販売)	地産産品の販売	●	●	●	●	●	●	●	●	●	各地域女性組織中心に活 動している。	継続	継続実施する。各地域 女性組織中心に活動す る。	継続実施		13組織	管内13組織で農産物・ 加工品を中心に販売を 行った。		A	直販を達し。 ・地産地消の推進 ・生産者と消費者の交流 (旬のものの紹介、食べ方の紹 介)を行っている。定期開催により、 旬の移り変わりや珍しい野菜を求 めて来る消費者も多い。引き続き 安全・安心な生産物の提供を行 う。	継続		
75	13.4	アグリフェスタ しみず(旧清水 農業まつり)	・農林水産業の紹介 ・農林水産物の展示 販売 ・実演、体験	●	●	●	●	●	●	●	●	●	地産地消の推進や生産者 と消費者との交流などを 目的に毎年開催してい る。	継続	継続実施する。地産地 消の推進や生産者と消 費者との交流などを目 的に毎年開催する。	継続実施		継続実施	農協・関係団体が出店 し、RS.11.19に開催し た。		A	令和5年度も多くの方に来場いた だった。 ・地産地消の推進 ・地域、生産者と消費者との交流 により、清水区で生産している農 産物の周知ができた。年後になると ほとんど商品が無くなってしま うが、天候やその年の収穫状況に 因るため、調整が難しい。	継続		

		目標14		農林漁業体験をしたことがある市民の割合を40%以上にする								全12事業													
		A B		C								D		E		F		G		H I		J		L	
		事 業 の 概 要		対象者 (該当に●、保護者を指定する場合は○)								第3次計画策定時の状況				令和5年度事業実績と評価						第4次食育推進計画への登録			
計画の 数値目標 番号	事 業	事 業 内 容	0 1 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 2 9 歳	2 3 1 1 2 9 歳	3 4 0 1 3 9 歳	4 5 0 1 5 9 歳	5 6 0 1 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題		平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性		令和5年度末目標値		実施計画(評価指標)		実績(成果)		評価	評価の理由と課題		事業の 方向性	削除の理由
76	海洋文化都市発展策	14 清水港マグロまつり	●	●	●	●	●	●	●	●	●	さらなる認知度向上のために、シティーセールスとして官民連携による苗穂園でのPR活動を実施していく。	継続	さらなる認知度向上のために、シティーセールスとして官民連携による苗穂園でのPR活動を実施していく。	来場者60,000人 (毎年実行委員会にて決定)	・清水港マグロまつりの開催 ・中部自動車道沿線市町へPR ・HPやSNSなどによるPR ・ポータルサイトの開設	・清水港マグロまつり2023「清水・マグロ博」の開催(55,000人來場) ・「清水は毎日がマグロまつり」をキャッチフレーズとした周年事業の実施(34回) ・中部横断自動車道沿線市町村でのイベントPRも積極的に展開した。	A	メインイベントとなる「清水・マグロ博」にはコロナ禍以前と同規模の来場があり、大規模なPRを図ることができた。 また、周年事業や中部横断自動車道沿線市町村でのイベントPRも積極的に展開した。	継続					
77	農業交流策	14 アグリチャレンジパーク蒲原活用事業	●	●	●	●	●	●	●	●	●	毎回多くの家族連れが参加し関わっているが、作物の成長が天候に左右されるため、作物管理等に課題が残る。	継続	アグリチャレンジパーク蒲原の認知度向上や農業への理解を促進するための苗植え及び収穫の体験を実施する。	年間2回(苗植え・収穫)以上の体験イベントを実施。参加者300名以上。	年間2回(苗植え・収穫)以上の体験イベントを実施。 参加者目標:300名/年	年間3回(ひまわりの苗植え、野菜の栽培、野菜の収穫)の体験イベントを実施。 参加者人数:240名	A	イベント実施回数は目標を達成し、多くの市民に農業体験の場を提供することができた。 イベントを単なる体験で終わらせるのではなく、新規就農者の確保につなげていく必要がある。	継続					
78	水産漁業振興	14 しずまえ漁業見学ツアー	●	●	●	○	○	○	○	○	○	しずまえで行われている漁業(桜えび漁、しらす漁、定置網漁など)や釣りの様子、水産加工工場の見学会を実施	継続	引き続き、多くの市民の皆さんに、「しずまえ」の漁業を知ってもらうため、漁業見学ツアーを実施する。	参加者30人	参加者30人	参加者30人	A	しずまえで行われている漁業を実際に見学することで、水産業への興味・関心を得ることができた。	継続					

		目標 14		農林漁業体験をしたことがある市民の割合を40%以上にする																								
		A		B		C							D		E		F		G		H		I		J		L	
		事 業 の 概 要		対象者 (該当に○、継続者を指定する場合は◎)							第3次計画策定時の状況							令和5年度事業実績と評価							第4次食育推進計画への記載			
地区	計画の 数値目標 番号	事業	事業内容	0 1 5 歳	6 1 1 9 歳	1 2 1 1 9 歳	2 0 1 5 2 9 歳	3 0 1 5 4 9 歳	4 0 1 5 9 歳	5 0 1 5 9 歳	6 0 1 5 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続
79	中山間 地域振興 実践	13 14	親子しいたけ理 駒打ち教室		●◎	●◎							原木椎茸生産者の減少 後継者不足	継続	体験教室で、消費拡大・ 地産地消につながるPR的要素を盛り込む	年1回(3月) 20組(40人)程度募集	年1回(3月) 20組(40人)程度	年1回(3月) 10組(42人)参加	A	当初計画していた目標を超える参加者が集まり、駒打ち体験を通じて椎茸等特産品産地を広くPRすることができた。	継続							
80	静岡市農業・食協同組合	13 14 15	親子食農体験 「ソレイユくらぶ」		●	●		◎	◎				・年々応募者が増え、今年も定員オーバーで開催。10年以上開催しており、企画のマンネリ化が否めない。	継続 充実 見直し・改善	例年通り4回程度開催	・継続開催(年間4回程度)	年間4回実施予定。	計画通り4回実施をした。 ①夏野菜を使った料理 ②新米を食べよう ③種の収穫体験 ④お餅づくり	A	4回終了時、アンケートを実施したが、どの回も好評だった。もっと開催回数を増やして欲しいとの要望があるが、これ以上増やすことは難しい。企画もマンネリ化している。	継続							
81	静岡市農業・食協同組合	13 14 15	出荷加工品づくり教室	●	●								・小学校やこども園の依頼で開催。担当の先生により開催回数が変わる。	継続	・学校やこども園の依頼があれば開催	・継続開催 大豆加工8回 米加工3回程度	小学校2校から(梅干しづくり、餅つき)の依頼有り。今後他に依頼があれば開催をする。	A	依頼があり、開催をした。	小学校から依頼があり、梅干しづくり、餅つきを実施した。対応する職員が減っている。	継続							
82	静岡市農業・食協同組合	14	農業体験教育事業		●	●	●	●	●	●	●	●	・人気の体験で、参加者も多いが、学校・こども園の依頼も多く、園場の確保が難しい。	継続 充実	例年通り開催予定	・体験農家の観光化のシステムの確立。	サツマイモ栽培、米作り、イチゴ栽培など依頼有り。実施作業10回以上。	A	依頼があり、開催をした。	サツマイモ栽培や米作り、イチゴ栽培など、実施作業10回以上行った。消費者の意見を聞くことができた。	継続							
83	静岡市農業・食協同組合	13 14 15	【重点事業】生涯学習振興事業	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・大豆やサツマイモのつるさしから収穫まで、一連の農作業を行う。収穫時には意見も交わる。人気もあるが、女性部の高齢化に伴いやり力を変える時期にきている。	継続 見直し・改善	例年通り10回程度開催	・年間10回、参加人数300人を目指す。	年間7回計画。 参加人数延べ2000人を目指す。	A	計画回数7回達成。参加人数達成。 7月から12月の作業や加工品づくりを通して、生産者の思いを伝え、消費者の意見を聞くことができた。	継続								
84	静岡市農業・食協同組合	11 14	体験学習	●									栽培への興味を深め、収穫時の喜びを感じることができた。収穫したことで嬉しいものも食べることができるようになった。食べ物大切にすることを学んだ。	継続	継続して様々な野菜の栽培、収穫をし食に関する興味を広げていく	栽培、収穫は5件以上	通年を通して季節の野菜作りを子どもたちと一緒に考え、楽しむ。	A	1年を通して子どもたちが栽培・収穫した野菜を調理して味わった。	子どもたちが栽培・収穫にかかわることで、野菜に対して興味を持つことができた。また、食べ物に対して感謝の気持ちを育むことができた。	継続							
85	清水農業協同組合	14	タタミ干し作り体験と体験果飴		●	●	●	●	●	●	●	●	イベント開催時に、生シラスが確実に消費出来るのが課題です。(シラス漁況により好不漁がある為。)	継続	—	関係団体と協議しながら、要なるPR活動をしていきたい。	11月頃に1回程度開催予定	A	11月27日に開催した。(清水農業協同組合でしらすを提供)	計画通り実施できた。	継続							
86	清水農業協同組合	2 14 15	出前講座	●	●								事業により育成した食農インストラクターや各地域女性組織、JA職員が指導対応している。	継続	依頼により実施する。事業により育成した食農インストラクターや各地域女性組織、JA職員が指導対応する。	依頼により実施	依頼により実施	A	依頼のあった小中学校・障害者施設・高校にて野菜栽培や収穫体験を実施。	・食農教育 ・食福連携 ・世代間交流	継続							
87	清水農業協同組合	14	農業体験教育事業	●	●								各地域青年社組織やJA職員が指導対応している。	継続	依頼により実施する。各地域青年社組織やJA職員が指導対応する。	依頼により実施	依頼により実施	A	こども園、小学校にて野菜栽培や収穫体験、リース作り等を実施。	・食農教育 ・世代間交流	継続							

		目標15 地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などを継承している市民の割合を35%以上にする										全8事業															
		A		B		C						D		E		F		G		H		I		J		L	
		事業の概要		対象者 (該当に●、保護者を指定する場合は◎)						第3次計画策定時の状況						令和5年度事業実績と評価						第4次食育推進計画への登録					
課名	計画の数値目標 備考	事業	事業内容	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	7歳児以上	現状・課題	平成30～令和5（2023）年度の取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画（評価指標）	実績（成果）	評価	評価の理由と課題		事業の方向性	削除の理由						
生涯学習推進課	15 6 15	ライフステージに応じた各種食育推進講座	各種料理講座、各種食育講座等	●◎	●◎	●◎	●	●	●	●	●	各生涯学習施設において、男性向け料理講座等、時のニーズに応じた各種講座を実施している。指定管理制度を用い多様な講座を実施しており食育講座を実施しない施設があるため目標値の見直しが必要。	継続	引き続き、様々な世代を対象に各生涯学習施設において事業を実施する。	全37施設中32施設で、ライフステージに応じた各種食育推進講座を実施	全37施設中32施設で、ライフステージに応じた各種食育推進講座を実施	A	計画の8割以上実施ができた。		継続							
健康づくり推進課	27 13 15	【重点事業】食育応援団	食育に関する知識や経験を持つ個人、団体、企業を応援団として登録し、食育に取り組む市民から依頼によりその内容にあった応援団を紹介する	●	●	●	●	●	●	●	●	年々利用数は増えており、利用者の満足度も高い。しかし、応援団登録数が少ないため応援団登録者に負担がかかっている	充実 見直し、改善	応援団の登録数や利用数を増やすため、様々な機会において周知を図っていく。平成30年度は周知方法を見直し、重点的に登録数増加への呼びかけをする。	・応援団登録数35件以上 ・応援団利用数85件以上	・食育応援団パンフレット作成及び配布 ・応援団利用数50件	A	食育応援団依頼件数については目標には達しなかったが（90%達成）、参加者の満足度は高かった。食育応援団の講師は1個人増加したが、R5年度末で1団体が活動休止となり、支援内容の幅を広げていくためには、新しい講師の登録が必要である。		継続							
ロビー・市民生活課	13 14 15	都市山村交流センターの活用	・自然食作り（料理も、味噌漬（ほか）） ・茶摘み体験 ・お打ち ・野菜収穫体験	●	●	●	●	●	●	●	●	人気のある講座は毎回募集人数を上回る申込みがある。一方で募集人数を下回る講座がある。	継続	講座参加者を実施しているアンケートに「今後やってほしい講座」の項目を設ける等してニーズに合わせた講座を実施していく。	・各種食作りの講座実施数50回以上 ・講座参加者数500人以上	・各種食作りの講座実施数50回以上 ・講座参加者数500人以上	C	評価指標の5割未満達成であったため、評価はDとした。コロナ後の行動変容により、講座の開催数自体が減少していることから、目標値の見直しが必要である。		継続							
学校給食課	13 14	【重点事業】地場産物を取り入れた献立の提供	県内産食材や地域の食文化を生かした献立を実施	●	●							学校給食における地産地消率4.4・6.6%（6月・11月のあるさと給食週間に限る）※R4R5年度調査中。数値はR28年度のもの。	継続	地場産物を活用した献立を提供し、献立表などでPRする。	学校給食における地産地消率の40%を維持する。	総食実施月には地場産物を使用した「ふるさと給食」を実施。6月と11月には連続5日間地場産物を使用した「ふるさと給食週間」を実施する。	地場産物を使用する「ふるさと給食の日」を毎月実施。6月と11月・連続5日間地場産物を使用した料理を提供する「ふるさと給食週間」を実施。	A	毎月の「ふるさと給食の日」と年間2回の「ふるさと給食週間」に加え、年単位で様々な地場産物の活用を意識した献立作成をした。		継続						
時間栄養推進課	15	調理技術研修会（和食、魚調理の研修など）	調理技術研修会（和食、魚調理の研修など）			●	●	●	●	●	●	毎回15～20名参加している	継続	現状維持	現状維持	新型コロナウイルスの状況を踏まえ開催する。	不実施	D	次年度については検討中		継続						
時間栄養推進課	11 15	食文化・食育普及啓発	郷土料理や地元食材を調理する機会を充実し、普及啓発を行う			●	●	●	●	●	●	・一般県民、市民及び調理従事者を対象に、食文化や食育の基本知識等の普及に寄与した。 ・参加者に対し、実演や試食等を交えながら教室を実施。健康寿命や食文化の重要性が増している現在において、知識や関心の普及啓発を図った。	継続	食文化と食育普及啓発の講習会開催 ふじのくに健康及び観光振興の普及啓発（県全体）	専門調理師による講習会を県内2カ所で開催 食材・料理の研究、新料理開発・展示発表等を目的とする「健康料理教室」を開催（県東・中・西各各地域で開催）	健康料理レシピの開発 県下22か所での料理の展示と料理教室の開催	地場産物を使用した健康料理の開発を10品行い、料理の展示と料理教室を開催した。	B	開発したレシピで料理教室を開催。さらに、野菜摂取の大切さを伝える健康教育講習も同時に行い参加者の好評を得ることができた。		継続						
生涯学習推進課	15	子育てトーク・おやつ教室	昼食、おやつづくり、餅つき、行事食等を開催	●◎	●◎							ほぼ達成できている	継続	子育ての食事作りや行事食等の指導子育てトークをしながら身近な食事指導に取り組む	5回	3回	B	依頼があれば対応をしたため、計画通りには実施はできなかったが、参加者には好評であった。		削除	事業名「親子で楽しく応援教室」等の他事業に含む						
時間栄養推進課	13 15	じまんの「しょく」フェスタ	地元農産物を使った料理や郷土料理を味わうイベント	●	●	●	●	●	●	●	●	・地元産品を使い、消費を募集してイベントを開催。衛生面も含められることが図られている。	継続 充実	・「J」のPRもかねて毎年1度は開催予定	・年間1回開催	時間産業フェアにて「スイーツフェスタ」を開催した。9つの朝市・加工グループが参加した。種類・出品数も昨年度より増やした（26種類・520品）。販売、各地の加工所のPRができた。	A	時間産業フェアにて開催することによって、来場客が確保されている。各地から来場されるので、多くの列に列ができた。2年連続スイーツフェスタとして開催したが、お弁当・総菜系に負けた方が多いのは残念。衛生面の関係から色々なことが難しくなっている。		継続							

		目標16		茶葉から淹れた緑茶を飲む市民の割合を80%以上にする										全4事業							
		A B		C				D		E		F		G H I J		L					
		事 業 の 概 要		対象者 (該当に○、保護者を指定する場合に◎)				第3次計画策定時の状況				令和5年度事業実施と評価				第4次食育推進計画への登録					
課 長	計画の 数値目標 番号	事 業	事 業 内 容	0 1 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 1 歳	2 6 1 2 9 歳	3 0 5 3 4 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5（2023）年度の 取組の方向性	令和5年度末日目標	実施計画（評価指標）	実績（成果）	評 価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由
95	農業政策課 1316	【重点事業】 お茶の美味しい入れ方教室	小学5・6年生を対象とした、日本茶インストラクターによるお茶の美味しい入れ方と「お茶のまち静岡市」について学ぶ授業を実施	●	●								毎年多くの学校が実施し、興味・関心が高まった等の実施後の満足度が高い。しかし、カリキュラムの関係で未実施となる学校があるなど、実施率100%に至らない。	継続 未実施校に対して、アンケート調査を行い未実施理由を調査することを実施につなげる。	静岡市内小学校 90校/90校	お茶の美味しい入れ方教室を希望するすべての市内小学校で実施	静岡市内小学校全87校へ希望調査を取り、希望校66校に実施。	B	学校側のカリキュラムの都合や、5・6年生全回での隔年実施希望、類似の授業実施済みなど、全校実施には至らなかった。希望する学校に対しては全校実施した。今後は茶生産者など民間とも連携しながら、市内小学校での実施率を上げていく。	継続	
96	静岡市食生活改善推進協議会	16	茶育・食茶の推進	●◎	●	●	●	●	●	●	●	●	今まで推進することが少なかったが、今後食育の中で努力したい	充実 全国一の茶どころである静岡なので飲むだけではなく茶育・食茶に取り組む	静岡県が全国一の茶どころであるために茶育・食茶に取り組む	2回	1回	B	茶育・食茶の教室としては募集をしておらず、依頼があれば対応をしたため、計画通りには実施はできなかったが、食育の日などにチラシを配布するなどして周知した。	削除	単独事業として開催していないため削除
97	静岡市農業協同組合	1416	お茶育	●	●	●							・各地区で小学校、中学校、こども園の依頼により開催する場合と独自イベントで体験する機会が半々くらい。茶摘みツアーが人気がある。	継続 充実 ・学校の依頼があれば開催し、独自の開催も増やしていく。	・体験農家の観光化のシステムの確立。	茶摘み5回、工場見学1回、お茶の淹れ方2回、淹しみ講習1回（小学校または小中学校）	学校から依頼があり開催をした。	A	茶摘み、工場見学、お茶の淹れ方教室を実施した。対応する職員が減っている。	継続	
98	静岡県茶産物振興会	16	緑茶を飲もう	●◎									来場者に緑茶を提供することで、地元の特産物に興味を持ち、再認識する良い機会になった。	継続 緑茶のおいしさを実感してもらう	子育てフェア 1回	来場者に緑茶を提供し、地元の特産物に興味関心をもつ。	子育てフェア 1回	A	来場者に緑茶を提供することで、地元の特産物に興味関心を持ち、楽しんでいただける良い機会に繋がった	継続	